

全国小中学生

# “紙リサイクル”コンテスト

## 2016

《主催》：公益財団法人古紙再生促進センター

《後援》：文部科学省、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、

全国市町村教育委員会連合会、全国小中学校環境教育研究会、

読売新聞社、全国製紙原料商工組合連合会、

日本再生資源事業協同組合連合会、段ボールリサイクル協議会

《協力》：教育新聞社

## 入賞者一覧

### 【金賞】

応募総数：947点（応募校数：89校）

部門		都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	東京都	東京創価小学校	4	萬谷 恵子	思いのこもった紙のリサイクル
	中学生部門	岩手県	岩手県立一関第一 高等学校附属中学校	3	千田 愛海	バトンを未来へ
ポスター	小学生低学年部門	熊本県	多良木町立多良木小学校	3	那須 遼太郎	紙パック あらって 開いて リサイクル
	小学生高学年部門	佐賀県	有田町立有田中部小学校	6	鷹巣 凌	紙リサイクルは地球と人のプレゼント交換
	中学生部門	福井県	福井大学教育学部 附属中学校	2	細川 詩月	みんなで回そう！！リサイクルの輪

### 【特別金賞】

部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
全国製紙原料商工組合 連合会 理事長賞	東京都	荒川区立第三日暮里小学校	4	吉野 咲月	五十キログラムの古紙で（作文）
日本再生資源事業協同 組合連合会 会長賞	岩手県	岩手県立一関第一 高等学校附属中学校	3	青江 春菜	紙リサイクルを始めた原点（作文）
段ボールリサイクル 協議会 会長賞	山口県	岩国市立灘中学校	2	水上 元晴	僕たちは大切な資源（ポスター）

### 【銀賞】

部門		都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	京都府	立命館小学校	4	豊田 賢世	きちんと細かく紙リサイクル
	中学生部門	静岡県	浜松市立西部中学校	2	澤村 紀香	わしは一度では終わらない
ポスター	小学生低学年部門	京都府	H a N a 芸術教室	3	川島 鳳太郎	紙があればなんでもできる！
	小学生高学年部門	山口県	岩国市立灘小学校	4	原田 乙花	紙は 生きかえる
	中学生部門	福井県	福井市立灯明寺中学校	1	小倉 侑実	紙リサイクルで森を守ろう！

### 【佳作】

部門		都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	福岡県	福岡市立別府小学校	6	古谷 權	植林から学んだ意識
		神奈川県	横浜市立二谷小学校	6	江本 真太郎	地球の未来を守る小さな一歩
	中学生部門	長野県	学校法人教学園中学校	1	糸井 大哲	ぼくにもできるリサイクル
		滋賀県	彦根市立西中学校	1	若林 明日風	わが家は日常リサイクル
ポスター	小学生高学年部門	青森県	八戸市立小中野小学校	6	高橋 桃華	みんなで紙リサイクル
		愛知県	知立市立猿渡小学校	5	下川 芽生	1人だけでなくだれでもできるリサイクル
	中学生部門	東京都	聖ドミニコ学園 中学高等学校	1	米波 桃花	小さな選択が大きな未来を変える！
山口県		岩国市立灘中学校	2	杉本 光暖	たくさんの捨てない心が未来生む	

## 作文小学生部門 金賞

東京創価小学校 4年

### 萬谷 恵子 「思いのこもった紙のリサイクル」

広島に住んでいる私のおじいちゃんとおばあちゃんにはピースボランティアをしています。(ピースボランティアというのは、平和記念資料館や公園に来た人、原爆ドームに来た人に案内や説明をしたり語り部をする人です。)

私にもよく戦争や平和の話をしてくれます。去年、お話を聞いた時にしおりを一枚もらいました。それは折りづるを持った女の子の絵がかいてあるキレイな紙でした。おばあちゃんがそのしおりは、平和を願って世界中の人が広島に届けてくれた折りづるで出来ているんだよと教えてくれました。毎年約一千万羽、重さは十トン以上も届く折りづるを再生紙としてリサイクルしてポストカードやノート、名しなどいろいろな物に生まれかわって使われているみたいです。私にもらったしおりもその一つでした。いろいろな色が入っていてすてきなと思っていたけれど、折りづるでできているなんて思わなくてびっくりしました。一羽一羽折った人の気持ちや真心がこもっている折りづるをリサイクルして、新しいせい品にして、広島に来てくれた人がそれを買って帰るといふ事が輪になってつながっているみたいで本当にすごいなあと思いました。

一枚のしおりですがみんなの気持ちのこもった特別な紙になったと思いました。

私は、折り紙が大好きです。いろいろな物を作りますが、作った後は捨てられることが多いです。いつもとても残念だと思っていたので、こんな風にもリサイクルされて新しく生まれ変わることが出来る事を知って、とてもうれしくなりました。

私は折りづる再生紙のことをもっと多くの人に知ってもらいたいです。できるなら折りづるだけではなくて折り紙全部をリサイクルできる「折り紙ポスト」のような物を作って捨てられそうな作品を集めてリサイクルしていきたいです。

リサイクルというエコとか一つの物を大切に使うというイメージがありました。今は作った人の気持ちや思いを残したいという気持ちや願いのよいうなものと一緒に未来につなげていきたいと思うようになりました。

私はそれを「キラキラ折り紙運動」という名前をつけて日本中から集まった折り紙をリサイクルして世界中に発信していきたいです。

# 作文中学生部門 金賞

岩手県立一関第一高等学校附属中学校 3年

千田 愛海

## 「バトンを未来へ」

教室のゴミ箱の隣にある「資源ごみ」と書かれたダンボール。私の学校では紙ごみのリサイクルに取り組んでいる。

掃除時間、ごみを出す時用務員さんはごみ箱に紙が入っていないか厳しくチェックする。用務員さんはどんなに小さな紙でも見逃さない。私のごみ捨て当番の時、用務員さんのところへ持っていく前に必ず自分で紙が入っていないか確認する。間違えて入れてしまったのか、それとも資源ごみ箱に入れるのが面倒だったのか、いつもごみ箱にはたくさんの紙ごみが入っている。

もしごみ箱にその紙を入れたまま用務員さんにも気づかれずに捨ててしまったら、ごみの焼却処理施設へと運ばれ燃やされてしまうのだろうか。

ではその紙を資源ごみ箱へ捨てたらどうなるのか。その紙は「資源物」としてリサイクルされる。そして古紙となり、それがダンボールや新聞紙、印刷用紙と変わる。そしてまたリサイクルされて別の製品に変わる。リサイクルはまるでリレーのようだ。リサイクルは、原料である木を守り、燃やすための石油も使わず、燃やした時に発生する二酸化炭素も発生せずにすむ、とても環境にやさしいリレーなのだ。

リサイクルについてこんなにも深く考えたのは初めてだった。すると興味がわいてきた。そのせいかいつもは気にならない家に貼ってあったあるポスターが目が止まった。それは私が住む奥州市が作った「リサイクルの分け方、出し方」というポスターだった。しかし私の目に止まったのは分け方でも出し方でもなかった。「リサイクルの主役はあなたです」リサイクルの主役は新聞紙やビン、缶じやないのか。この文の意味は何なんだろう。私は母に聞いてみた。すると、「リサイクルは小さな小さなことの積み重ねでしょ？その小さな積み重ねをしようと思うあなたの気持ちがりサイクルで一番大切なことなんだよってことじゃないかな。」と答えてくれた。それを聞いて私の心の中のものもやは消えた。

最後にあなたの周りを見てほしい。新聞、教科書、ノート、チラシ、紙袋、レシート。たくさんの紙があるだろう。現代の私たちにとって、紙はなくてはならないものになっている。リサイクルをしなければ未来の日本、そして世界は環境が破壊されているだろう。そうならないためにも、リサイクルの主役である私たちひとりひとりがリレーを続けなければならぬ。このバトンを未来へ繋ぐのだ。

## ポスター小学生低学年部門 金賞

多良木町立多良木小学校 3年

那須 遼太郎

「紙パック あらって  
開いて リサイクル」



## ポスター小学生高学年部門 金賞

有田町立有田中部小学校 6年

鷹巢 凌

「紙リサイクルは地球と人のプレゼント交換」

僕は、紙リサイクルについて本を読んだり、学んで僕達の紙リサイクル活動は、地球の資源を守り木を守ることもなるとわかりました。僕達の使う紙は、地球が一生けんめい育てた、木のおかげなので、紙リサイクルは地球と人がプレゼント交換しているみたいだと思ったので、それをイメージして書きました。



## ポスター-中学生部門 金賞

福井大学教育学部附属中学校 2年

細川 詩月

「みんなで回そう！！」

### 「リサイクルの輪」

紙は様々な人の手を渡り、過程を経て、リサイクルされていることをこの絵に表しました。

また、私たち消費者が手をさしのべ、リサイクルに出さなければ、この紙リサイクルの循環が止まってしまいます。だからこそ、私たちがリサイクルに出すことが大切だということを伝えたかったです。



## 段ボールリサイクル協議会 会長賞

岩国市立灘中学校 2年

水上 元晴

### 「僕たちは大切な資源」

僕はどんな紙類が何にリサイクル出来るのか知りたくて書いてみました。新聞はノートや週刊誌に、ダンボールはダンボールに戻ったり、卒業証書などを入れる容器に、雑誌やカタログはドーナツの箱や絵本に、牛乳パックはトイレトペーパーに、自分の卒業証書の容器もリサイクルなんだと知り、リサイクルを身近に感じました。



# 全国製紙原料商工組合連合会 理事長賞

荒川区立第三日暮里小学校 4年

吉野 咲月

## 「五十キログラムの古紙で」

私は、総合の学習で「リサイクル」について学びました。その時は布のリサイクルについて調べました。紙リサイクルについてはくわしくなかったので、図書館に行き、「コロッケ先生の情熱！古紙リサイクル授業」という本を借り、読んでいると私の知らなかったことが書いてありました。

私がイメージしていた紙リサイクルは、使い終わった紙をしげん回しゆうで集め、新しい紙になる。それがリサイクルだと思っていました。でも、そんなにかんたんなことではなかったようです。

コロッケ先生は二十七歳のときに社長から「あと八年でおまへは次の社長になるんだ」と言われました。その後社長になり、古紙を集める新しい方法をいろいろ考えて、発表しますが、社員に反対され、社員の心が一つにならないことをなやみました。そこで、取引先の社長に相談し、コロッケ先生は勉強会に出る事をすすめられ、大さかで行われた勉強会に参加しました。そこで勉強会の先生から「自分の商品が好きですか？抱いて寝れるほど好きですか？」と聞かれ、コロッケ先生は、「うちの商品は古紙だから…抱いて寝れるほどは…。」と思いました。しかし、商品を大事にしない社長は社員も大事にしない、そんな社長には社員もついてこないと言われ、古紙を集める意味をあらためて見つめなおしました。

リサイクルってなんで必要なの？新しい紙を作ればいいじゃないの？それはちがうということ。私は社会科で勉強しました。うめたて処分場があると五十年しかもたない、紙がゴミとしてたくさん出てしまうとうめたて処分場がいっぱいになり、ゴミだらけの町になってしまふ。もともと紙は木から作られます。紙を作るために三十年かけて大きく育った木が切りたおされる。とコロッケ先生は言います。みんなが古紙を集めてリサイクルしてくれたら、その木が助かります。では木を一本助けるのに、何キログラムの古紙をリサイクルすればいいでしょうか。実は、五十キログラムの古紙をリサイクルすれば一本の木が助かるそうです。

五十キログラムと言うのは、子どもだと二人分のおもさです。それは、とても多いようだと感じました。古紙を五十キログラム集めそれをリサイクルすると、やっと一本の木が助かると思うと、とてもむずかしい作業だと思えます。でも三十年もかけて大きく育った木が紙を一回使うだけで終わりと云うことはもったいないです。今までも、学校や家庭で紙をしげんに出していました。でもしげんに出さなきや木がむだになる。とは思わないで出してしましました。これからは、木がむだになるといしきして、古紙をリサイクルします。

# 日本再生資源事業協同組合連合会 会長賞

岩手県立一関第一高等学校附属中学校3年

青江 春菜

## 「紙リサイクルを始めた原点」

私には苦手なことがある。それは、「毎日続けること」だ。三日坊主はしょっちゅうで、気をつけよう、心がけよう、と思っても大概すぐ忘れる。もちろん、よく電気をつけっぱなしにし、怒られている。だが、そんな私でも、続けていることがある。それは「ゴミの分別とリサイクル」である。きっかけは、小学校の頃の行事、廃品回収だった。

その名の通り、いらなくなった新聞紙、雑誌、紙パックを集めるといふものである。低学年の頃から参加はしていたが、面倒だし、重たくて疲れるし、最初は嫌いだ。しかし、毎回毎回、おもしろくらい集まるのだ。地域のみなさんも、家庭で出た新聞を出して下さったりしていた。そのおかげで、終わるころには、身長をゆうに超える山ができて、つており、気付くと、私はこの行事が大好きになっていた。

以後五年程、私はほとんどの回に欠かさず参加していた。回を重ねても、いつも大量に集まるのは、壮観としか言いようがなかった。と同時に、これだけ地域の人々もリサイクルに関心をもっていたこととの裏付けでもあるのだと、今になって思う。現在は中学三年生なので、それ自体には参加していないが、今でも紙の分別は続けられている。では、なぜあれほどリサイクルに協力してくれる人が多かったのか。なぜこんな私でも続けられるのか。

それを考えたとき、私は三つの良い点があるからだとわかった。

一つ目は、身近であること。見たせば、紙類はそこらじゅうにある。雑誌も新聞紙もまったく持っていない人は珍しいだろう。

二つ目は、成果が分かること。節電などはもちろん大事だが、やはり成果が見えづらい。しかし紙類は、集めた分が、自分の努力の成果である。きつと幼い頃の私も、自分が集めて来たものが、山になって見える形で表れたことが、廃品回収が好きだった理由だったのだろう。

三つ目は、リサイクル後が、ノートなどと身近に戻ってくることだ、自分の努力が認められた気がして、嬉しくなる。

だから私は、紙リサイクルは、ズボラな人にほどやってみてほしい。部屋に紙袋を置き、そこに紙類を入れるよう意識するだけでも、ちゃんと分別になると思う。実際に、「塵もつもれば山となる」で、けっこうたまっていく。私はこうやって、紙の分別をつづけてきた。そして、そこからリサイクルへの意識を高め、他のことにも挑戦したいと思っている。これからも、リサイクルを「楽しい」と思ったきっかけを忘れず、紙リサイクルを続けていきたい。